

センチネルリンパ節生検を伴う乳房部分切除術後の同側乳房内再発例における腋窩治療に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2023年6月1日～2025年3月31日

〔研究課題〕

センチネルリンパ節生検を伴う乳房部分切除術後の同側乳房内再発例における腋窩治療に関する後ろ向きコホート研究

〔研究目的〕

同側乳房内再発における適切な腋窩治療(わきの下のリンパ節に対する治療)について検討することを目的としています。

〔研究意義〕

2000年代からセンチネルリンパ節生検と乳房部分切除術と放射線治療を行う乳房温存療法が普及しました。しかし、数%の患者さんは温存した乳房に再発することがあり、これを同側乳房内再発と言います。同側乳房内再発の患者さんにセンチネルリンパ節生検を試みた報告は多数ありますが、適切な治療について専門家による見解の一致は得られていません。そこで、同側乳房内再発と診断された方の臨床情報を登録してデータを解析する研究を計画しました。この研究に参加いただくことから同側乳房内再発における適切な腋窩治療について貴重な情報を得られることが期待されます。

〔対象・研究方法〕

【対象】

以前に乳房部分切除術を受けられた方で、2010年1月1日～2022年8月31日までに、帝京大学医学部附属病院・外科(乳腺)で同側乳房内再発と診断された方が対象となります。

【研究方法】

上記の対象となる患者様の診療録(臨床データ、画像データ、病理組織所見等)を参照し、SNNS研究会事務局内のデータセンター(慶應義塾大学病院 一般消化器外科教室内)に登録し解析します。

〔研究機関名〕

研究代表機関:杏林大学医学部附属病院

研究代表者:井本 滋 杏林大学医学部附属病院 乳腺外科 教授

〔個人情報の取り扱い〕

対象となる患者様のデータは個人情報が分からないように調査番号に置き換えてデータセンターに登録し解析します。データセンターではデータの管理と保護を徹底しています。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 神野浩光 帝京大学医学部 外科学講座 教授
研究分担者: 松本暁子 帝京大学医学部 外科学講座 助教
所属: 帝京大学医学部 外科学講座 / 帝京大学医学部附属病院 外科
住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1231 (代表)